

令和8年（2026）夏の企画展

あさひ捕り物帖 — 勢力富五郎を探る —



錦絵の中の勢力富五郎 (No. 9 部分)

開催にあたって

大原幽学が活躍した江戸時代末期の東下総地方は、利根川水運で栄えた河岸とイワシ漁で賑わう九十九里浜とその間に干潟八万石と呼ばれる広大な水田地帯が存在していました。経済的には豊かでしたが、その反面で博徒らも集まり治安が不安定な状況でした。嘉永2年にここを縄張りになっていた香取郡万歳村の無宿佐助等の大規模な捕縛一件が起こります。本展示ではこの勢力一件を通じて、大原幽学の活動の舞台となった東下総の幕末の状況を紹介します。

大原幽学記念館

展示の構成

開催にあたって

I 勢力一件

II 勢力の探索

III 勢力富五郎の誕生

おわりに―勢力一件の意味―

凡例

- ・本書は大原幽学記念館の令和8年度夏の企画展「あさひ捕り物帖 - 勢力富五郎を探る -」（会期：7月11日～9月6日）の解説シートである。
- ・資料の解説や翻刻文には常用漢字を用い、適宜、句読点をつけた。
- ・所蔵を明記していない資料は当館蔵である。
- ・解説は当館米谷博が執筆した。

I 勢力一件

元相撲取りだった無宿佐助はかつての四股名の勢力を名乗り、利根川下流の香取郡笹川河岸を拠点に、大勢の子分を抱える博徒集団の親分として幅を利かせていた。彼らは鉄砲や長脇差などを持って村々を横行し、強請や強奪などの悪行を繰り返しており、周辺の村々は恐怖のあまり、普段の農事にも差し障りが出るほどの状況で、村々は関東取締出役へ捕縛の歎願をしている。

嘉永2年（1849）3月18日から下総小金中野牧（鎌ヶ谷市・柏市）で12代将軍家慶が上覧する大規模な鹿狩りが行なわれることになっており、幕府としてもその前に下総の地にはびこる悪党一味を一掃しなければならず、ついに3月8日、勢力佐助の本格的な搜索が始まった。

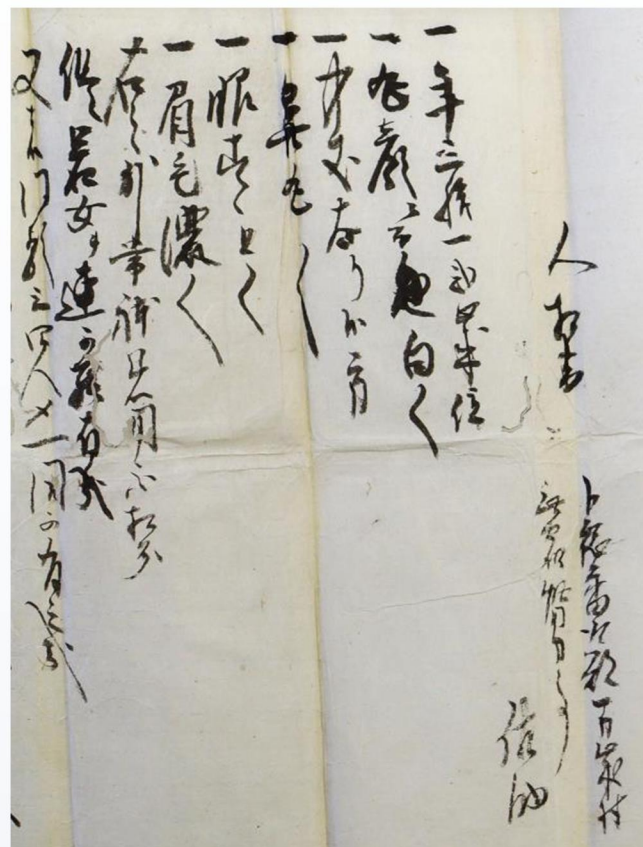
大勢の道案内と人足によって山狩りが行われ、次々と子分たちが捕まっていくが、勢力たちは周辺村々を転々としてこの地に潜伏しなかなか捕まらず、捕縛作戦は予想外に長期化する。勢力は香取郡小南村（東庄町）の金毘羅山に立て籠もって最後まで鉄砲で抵抗を続けたが、4月28日に力尽きて子分の栄助とともに自決して事件は終結する。この一件では関係者59人が捕まり、近くの小見川村で関東取締出役による吟味がなされ、重罪者15名が江戸送りとなった。

約2か月間に及ぶこの大捕り物は、幕府に対して鉄砲で応戦するという勢力の行動が、近隣の村々をはじめ江戸でも大きな話題となる。利根川にほど近い水辺の干潟地域に立てこもって抵抗する姿が、当時流行していた中国の水滸伝になぞらえて「天保水滸伝」という題名で講談、歌舞伎や錦絵などで取り上げられた。近代以降は映画や歌謡曲など大衆文化でも人気を博し、その過程で博徒の勢力佐助は義賊の勢力富五郎とっていった。

人相書	下総国香取郡万歳村 無宿勢力事佐助
一、年三拾一歳位	
一、丸顔二而色白く	
一、中丈太り候方	
一、鼻丸く	
一、眼すゝとく	
一、眉毛濃く	
右之外常躰、着用不相分	
但し、若女ヲ連可能有哉	
又者同類三四人メ一同可有之哉	

1. 勢力の手配人相書(部分) 年不詳

進藤秀世家文書 袖ヶ浦市郷土博物館寄託
この人相書は上総国望陀郡蔵波村名主宅に伝わったものである。海上郡には与力給知が多数存在しており、その管理は蔵波村名主進藤甚兵衛が地方役として担っていた。その関係で同家に伝わったと思われる。



勢力一件の経緯

勢力の手配は天保15年から出されているが、何度も捕縛に失敗している。嘉永2年3月からの捕り物は、関東取締出役の手先5、6百人が集められ、襷や鉢巻きで持ち場を分けし、改革組合村の人足等とともに大規模な山狩りが実施された。それでも首領の勢力佐助を捕まえるには約2か月を要している。

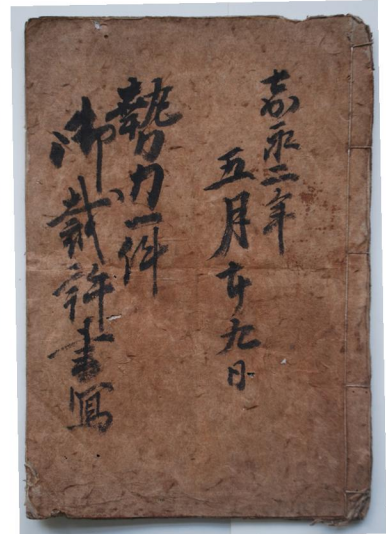
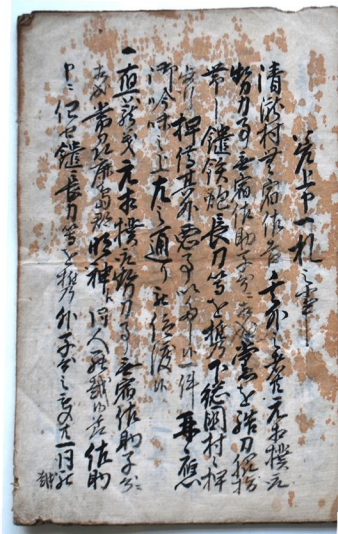
勢力一件関係年表

年号	西暦	月日	事 項
天保15	1844	8, 6	飯岡より助五郎が笹川へ繁蔵を召し捕りに行くが失敗する
		8,10	繁蔵と勢力が手配者として人相書きの廻状が出される
弘化2	1845	3,23	繁蔵と勢力に対して探索の廻状が関東取締出役より出される
弘化4	1847	7, 4	笹川において繁蔵が暗殺される
		9, 3	勢力一味の捕縛の手配廻状が、関東取締出役より万歳村組合へ出される
嘉永2	1849	1, 5	万歳村組合内を調べるため大小惣代が関東取締出役より鍵屋へ呼び出される
		2,15	常州鹿島大明神へ勢力一味は参詣に行く
		3, 7	明日8日に勢力等を囲い込むので、人足を差し出すように最寄りの村76か村へ関東取締出役より廻状が出される
		3, 8	本格的な探索が始まり、勢力等は小座村名主と惣右衛門方へ逃げる
		3,11	宮本村の武兵衛への吟味に対し、4か村の名主より慈悲願いが出される
		3,12	勢力等同類の者どもは、諸持村から小南村・夏目村へ逃げ去る
		3,13	役人衆が引払うので、召捕った者を小見川などへ預ける
		3,14	勢力等は小座村源蔵宅へ寄り、夜には同村の惣左衛門宅へ立ち寄り一昨日には夏目村で食事しており、このとき米を4、5升持っていた
		3,28	拝借鉄砲や硝煙のある者は万歳村の旅店まで持参するよう、組合村々へ廻状が出される
		4, 1	勢力等へ食料を与えることや匿うことの禁止など、探索する上での基本的な心得が栗野村へ廻状が出される
		4, 4	勢力等の手配について、関東取締出役の斉藤勘四郎より申し渡しがあるので、万歳村の旅店へ明日5日に集まるよう廻状が出される
		4, 4	小見川村善次郎と神崎村千代吉の両道案内から雨天時の探索指示の廻状が出る
		4, 5	召し捕り探索方の具体的な諸注意について廻状が出される
		4, 6	万歳村他最寄り76か村は関東取締出役へ対し、悪党等が捕まるまでは引払わないように願っている
		4,15	小座村他5か村の見回りについて、常州土浦町の道案内内田佐左衛門から急状が出される
		4,21	青馬村の百姓金右衛門が召し捕りになり村預けとなる
		4,28	勢力と栄助が小南村の金比羅山で自殺する
		閏4, 1	岡飯田村の宇平について帳外れの身元確認が行なわれる
		閏4, 2	事件の落着にともない関東取締出役へ万力村他5か村が御礼を申し上げる
		閏4, 7	栗野村の林次について帳外れの身元確認が行なわれる
		閏4, 8	小座村の直蔵への御慈悲願いが関東取締出役へ出される
		閏4, 8	宮本村の武兵衛への吟味に対し、4か村の名主より慈悲願いが出される
		閏4, 8	万歳村等4か村役人の吟味へ対し、万力村他7か村の名主より宥免願いが出される
		閏4,10	捕縛した15名と押収した武器類が、小見川村より江戸へ送られる
		閏4,11	万歳村の名主は組合村33か村の名主を鍵屋へ呼び慰労会を行う
		5,29	召し捕られた者の処罰について村々で請け書きが作られる
		6, 1	万歳村より舟戸村他3か村へ、召し捕られた者の処罰を知らせる廻状が出された
		6, 4	今回の探索に関わった道案内らへ褒美金が出される

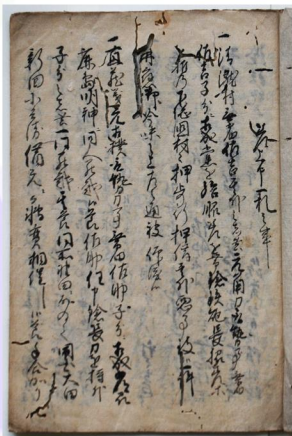
(米谷博「近世東下総における悪党の捕縛と組合村」より転載)

各地に残る一件の記録

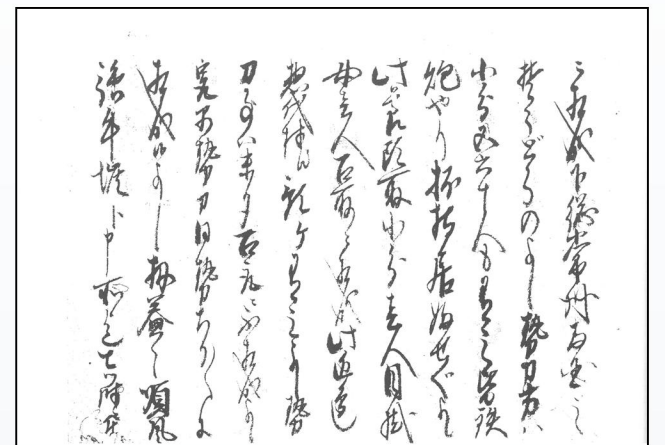
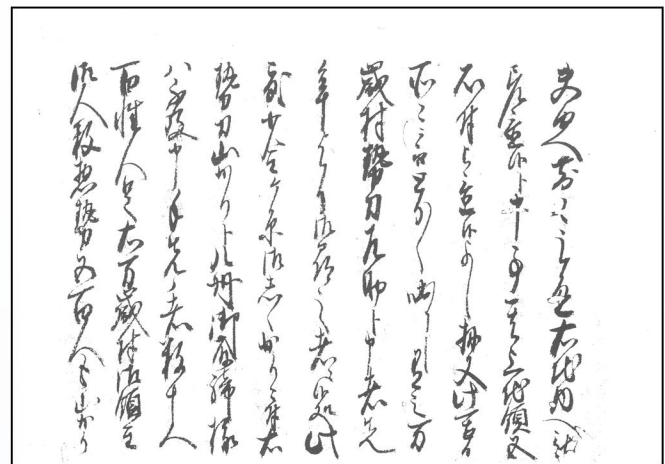
勢力一件の記録は事件現場となった東下総地域の各地に残されている。それはこの一件が決して他所事の話ではなく、自村も似たような環境にあったため村役人たちが強い関心を持っていたからである。人足として探索に直接かかわった村々には、道案内からの廻状の写しなどがあるが、ほかにも事件後に記された処罰者らの罪状や刑罰の詳細を記した裁許書の写が多く残されている。上野国碓氷郡や常陸国東茨城郡などでも確認できるが、注目されるのは裁許書の写が版本でも流布していることである。これは事件記録を教材とした往来物の一種として活用された可能性もある。また、この地を通りかかった旅人の道中記のほか、江戸送りとなった重罪人の一行を見た沿道の村にも記録が残されている。



2. 勢力一件裁許書 嘉永2年5月 旭市文書館蔵



3. 万歳村無宿勢力子分共咎次第書 嘉永3年5月
海上郡中谷里村に残る。No.2の文書と同じ文書を
書写したもの



鹿嶋参詣道中記

嘉永二己酉年
三月

夫ゆえへ前々之通、右地内へ被
差置候ト申事、其上地領五
石付被置候よし、扱又此一兩日
所々二而とかく咄し有之、万
歳村勢力左助ト申者、先
年より御尋之者二候処、此
度小金ヶ原御しゝかり二付、右
勢力山かりト八州御取締様
ハ不及申、手先ノ者数十人
百姓人足、右万歳村御領主
御人数惣勢五百人も山かり

二相成、下総・常州両国之
そどうのよし勢力方ハ
小分五六十人も有之、皆鉄
砲やり抱持居ふせぐよし
此節頭取子分衆人目掛
女老召取二相成、此近辺
惣代村江預ケ有之よし勢
力事ハ未タ召取二不相成よし
最早勢力同勢ちりちりに
相成候よし、扱益々順風
強、牛堀ト申所迄七ツ時二付

4. 道中記に見える勢力一件の記事

鹿嶋参詣道中記 嘉永2年3月 個人蔵

安房国朝夷郡和田村（南房総市）一行が、常陸国の潮来村から牛堀村へ行く途中に聞いた噂話として勢力のことを書き留めている。勢力一件が利根川を超えて広範囲に広まっていた

Ⅱ 勢力の探索

幕末期の関東地方では、治安の乱れに対応するため、幕府勘定奉行の配下として広域警察的な関東取締出役が文化2年(1805)に設置された。この役職は8名という少人数だったので、業務を補佐する御改革組合が各地に組織され、道案内も配置された。十手を預かる道案内は身元確かな者が選ばれることになっていたが、実際は地域の裏事情にも通じた侠客の類が就いたようである。勢力一件では常陸国新治郡土浦町（茨城県土浦市）の内田佐左衛門という道案内が中心となって捜索に当たっている。佐左衛門は土浦町の元町役人という大物だったが、それだけ幕府もこの一件を大事件として認識していたわけである。海上郡にも飯岡村（旭市）に道案内の石渡助五郎がいたが、5年前の天保15年（1844）に笹川河岸での繁蔵と勢力の捕縛に失敗したこともあって、この時は佐左衛門の補助役として近くの清瀧村に控えていた。

佐左衛門の指揮により勢力の子分たちは次々と捕らえられていき、勢力達も香取郡小南村（東庄町）の金毘羅山に追い詰められ、そして最後に勢力は自決して捕り物は落着となる。

捕らえられた者たちは香取郡小見川村（香取市）で関東取締出役の吟味を受け、重科の者たちは江戸へと送られた。沿道には事件の噂を聞いた見物人も多く、勢力一件はさらに大きな話として広まっていった。

地元に潜伏する勢力たち

- 3/8 笹川で捜索開始
- 3/8 古座村
- 3/11 諸持村
- 3/12 小南村
- 3/13～15 古座村
(不明)
- 4/28 万歳村、八重穂村
栗野村、小南村

遠方へ逃亡せずに、地元の村々を転々とした。一味は銘々で逃げており、食料は十分に持っていたという

江戸送りとなった者たち

- 閏4/9 小見川村出立
滑川村泊り
- 4/10 我孫子村泊り
- 4/11 千住村泊り
- 4/12 勘定所に着
11人入牢、4人宿預

処罰者59名のうち重科の15人は江戸送りとなる。沿道には見物人も多く、勢力一件の噂はさらに広がっていった



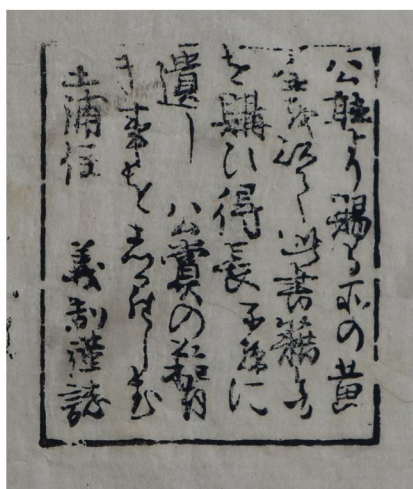
5. 干潟周辺の絵図 内田家文書 土浦市立博物館蔵



6. 万歳村絵図に見える「佐助実家」

内田佐左衛門は干潟周辺の絵図のほかにも万歳村の詳細な絵図も作成していた。地理的助教を踏まえ、臨機応変に的確な指示を出している。当然ながら佐助の家も把握していた





土浦の道案内 内田佐左衛門

関東取締出役の命を受け、勢力一件では現地で指揮を執った。金比羅山では自分が引き連れていった手下一人が鉄砲で打たれて落命するが、最後まで勢力を追い詰めて自決させる。一件後に幕府より報奨金を賜り、それで蔵書を充実させており、それらには由来を記した蔵書印が見える。

7. 内田佐左衛門墓 土浦市神龍寺
戒名「悔庵知改居士」
安政5年(1858)没、53才

8. 佐左衛門蔵書印 土浦市立博物館蔵
内田家文書の中の「江戸砂子」表紙裏の蔵書印
「公聴より賜る所の黄金を以て書籍等を購ひ得、長子孫に遺し
公費の難有き事をしらしむ 土浦住 義成謹誌」

Ⅲ 勢力富五郎の誕生

勢力一件は首領の佐助が金毘羅山で自決し、子分らも江戸へ送られて処罰されて一応は落着となる。しかし、幕府に武力で抵抗した勢力の行動は、江戸の人々にとっては大きな衝撃だったようで、市井でも話題となり文化人らの記録にも勢力一件の記載を見ることができる。

嘉永3年(1850)には現地取材をした講釈師宝井琴凌によって軍談物が作られる。勢力たちが利根川に近い干潟地域において捕吏に抵抗した行動が、当時流行していた中国の梁山泊の水滸伝に見立てられ、この物語は「天保水滸伝」として錦絵や歌舞伎などでも取り上げられるようになる。

それらの作品では勢力は主人公であり、名前も実名ではなく神力民五郎という義賊として描かれている。勢力は義理に堅い二枚目の侠客役で主役だったが、やがて物語の筋が笹川方と飯岡方の対立抗争の話が多くなってくると、神力は繁蔵の一の子分勢力富五郎という脇役へと変わっていき、昭和になるとラジオの普及とともに浪曲の物語が全国津々浦々へと広まっていった。

勢力佐助から勢力富五郎として地元に戻ったのちは、笹川繁蔵や平手造酒とともに笹川の三士となり、現在では地域の観光資源として大きく貢献している。



9. 近世水滸伝の内笠川髭蔵競力民五郎と計て闇に飯岡捨五郎が
妾宅を襲ふの図 歌川芳虎 慶応3年(1867)



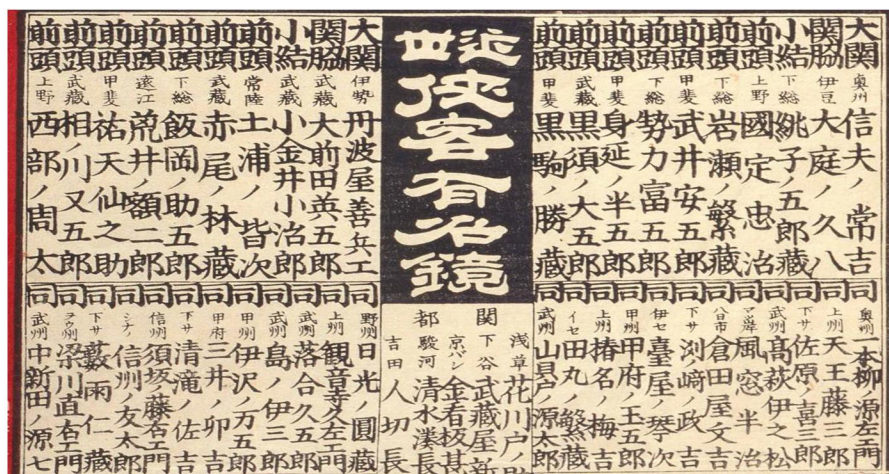
10. 近世水滸伝 競力民五郎
歌川豊国 文久元年(1861)

勢力は元相撲取りで、腕つぶしが強く怪力という設定になっている。No.9の錦絵では角材を振り回す姿が大きく描かれている。右端に繁蔵、左端に助五郎が見えるが構図の中心人物は勢力である。



11. 近世侠客有名鏡 明治27年（1884） 江戸東京博物館蔵

関東甲信越から奥州や東海道の主な侠客149人が載る。下総は40人で約27%を占めている。当時の人々には下総は博徒の多い土地と認識されていた



12. 群清滝最眞勢力（左から 豊原国周 慶応3年（1867）

白滝与吉・三ツ島左門・神力民五郎・甚兵衛娘おしほ） 国会図書館デジタルアーカイブ



勢力作品から笹川と飯岡の対立作品へ

天保水滸伝は勢力の人気と共に、さまざまな登場人物が加わり、ストーリーの柱は義賊勢力の活躍よりも飯岡と笹川の対立話が主となっていく。主人公は勢力から繁蔵へと代わり、平手造酒や洲崎政吉、清滝佐吉、座頭市らが主となる作品も作られていく

左 13. 競力富五郎 大正7年頃（1918） 魁斎芳年「近世侠義伝」

右 14. 勢力富五郎 明治32年（1899） 石川一口講演、丸山平次郎速記



15. 金毘羅山の勢力の碑

右：霊神の碑 明治20年（1874）

左：歌碑 昭和15年（1940）

「時鳥 こんぴら山の 一声か 関八州に ひびく勢力」

悪党から英雄化の流れ



16. 笹川の三士の碑 東庄町延命寺

中央：笹川繁蔵、左：勢力富五郎、
右：平手造酒

表 悪党から英雄へ

米谷博「無宿勢力一件から『天保水滸伝』へ」より

おわりに 一勢力一件の意味一

一 内憂としての勢力一件 一

江戸時代末期の徳川幕府は「内憂外患」といわれる非常に困難な問題を抱えており、幕府存亡にかかわる危機的な状況にあった。外患とは日本の近海に数多く出現していた異国船の脅威と外圧であり、内憂は天保の飢饉以降、国内各地で発生した一揆や打ちこわしなど民衆運動や、無宿や浪人の増加といった治安の混乱した社会情勢である。

関東周辺でも離農する百姓の増加が農村を荒廃させ、村を飛び出した若者たちが集団化し、徒党を組んで地域を横行するなどの悪行が問題となっていた。勢力一件は当時の関東農村が抱えていたさまざまな問題が凝縮され、噴出した事件だったといえる。

一方でこうした状況下でも、村の治安を守り村を復興させようと奮闘した名主たちもいた。彼らが抱いていた切実な危機感が、大原幽学のような農村指導者をこの地に登場させたわけである。勢力と幽学は博徒と農村指導者という対照的な立場であるが、そうした人物が東総地方の香取郡内に同時に存在したという点も非常に興味深いといえる。

国内外の混乱による幕府の弱体化は逃れがたく、勢力一件から18年後の慶応3年（1867）に大政奉還がなされ、徳川氏による幕府政治は幕を閉じることになる。

【参考文献】

- ・干潟町『干潟町史』（1975）
- ・海上町『海上町史』史料編Ⅱ近世（2）（1988）
- ・千葉県立大利根博物館『天保水滸伝の世界』（1993）
- ・米谷博「近世東下総における悪党の捕縛と組合村」（『千葉県史研究』11号別冊 2003）
- ・千葉県『千葉県の歴史』資料編 近世1（房総全域）（2006）
- ・城山古文書会『鍋屋嘉兵衛の道中記』（2012）
- ・袖ヶ浦市郷土博物館『村のくらしと一大事 - 江戸時代の事件記録を読む -』（2015）
- ・城西国際大学水田美術館『浮世絵でつづる房総人物伝』（2018）
- ・米谷博「無宿勢力一件から『天保水滸伝』へ - 英雄化する博徒たち -」（『利根川文化研究』39号 2015）

【御協力いただいた方々】

本展示会の開催にあたり多くの方々にご協力をいただきました。記して謝意を申し上げます。

【個人】石川雅晴、粕谷篤史、進藤秀也

【機関】旭市文書館、国立国会図書館、国立公文書館袖ヶ浦市郷土博物館、千葉県立中央博物館、土浦市立博物館、東京都江戸東京博物館、東京都公文書館

令和8年度夏の企画展「あさひ捕り物帖 一勢力富五郎を探る一」解説シート

【発行日】：令和8年7月11日

【編集/発行】：大原幽学記念館 〒289-0502 千葉県旭市長部345-2 電話0479-68-4933